



瑞河院百首
上

特別
イ4
3163
58(1)



世貞
14
3163
58(1)

二八

梅川院百首和歌上目錄

春

立春 子日 露 鶯 若菜

殘雪 梅 柳 早蕨 櫻

春雨 春駒 啼鷹 呼子鳥 苗代

草菜 杜若 藤花 款冬 三月盡

夏

濃列飯沼氏
表佐叔藏書

更衣 卯花 葵 郭公 葛蒲
 早苗 照射 六月西 昼橋 螢
 蚊遣火 蓮 氷室 泉 荒和拔



堀川院百首和歌上

春

立妻

妻たりて指にさへぬ白雲のこころ花の咲くをこれ公實
 氷わらふ旅のゆくさ記うら解くさ浪守り妻を吹 廷房
 三室山谷めやまね立ぬらん雪の下み霜めくさる 國信
 う野山はなれや雪れ消行ふ浦の古年よままや 師光
 うらるひこまきばはさるわ川の岩面氷しりや 顕季
 初まききゆりな海風のまきさめてまらさるゆきれゆ 仲實
 庭をせり流くるさる流人のまきゆきゆき世れ物云 俊光

いぬ鳴くは多し名の二つあるやうに成りたるやうに
 師時
 候にけし明いしやれ千の心にて其方よりまぢり
 頭仲
 よう野山守りありてまぢりしとまぢりし物ありて
 基後
 うらひ守りまぢりありてまぢりしとまぢりし
 隆源
 けしめ細音の解ゆは水とありやまぢりし
 肥後
 まぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 紀伊
 まぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 河内
 子日
 種いりて二葉の松とありてまぢりしとまぢりし
 公實
 まぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 建房

たいしとまぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 國信
 種いりて二葉の松とありてまぢりしとまぢりし
 師親
 君代の種のはの松は下なりとまぢりしとまぢりし
 顯季
 玉けしとまぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 仲實
 祝ひたりし松とありてまぢりしとまぢりし
 俊親
 種のはとまぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 師時
 二年生れ二葉の松は川へてし日より後のまぢりし
 顯仲
 野へまぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 基俊
 時をふりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 隆源
 幼とまぢりしとまぢりしとまぢりしとまぢりし
 肥後

野毎より川より小松系ゆひ初来そかきり外れ
君世れ子年次の今一孫の目して松のしほいさう通し
河内

三原

海より川をぬきし
妻前志は海邊に流れても海女安
わきもこう神物山をまきこころおれ家ちうき
邦がへてまきおれ直に鏡の山とく心成り
砂のよれありれ社よまきくれおあまひくも浦の山
み渡せばまき舞うまの城より露もあひく揚舟の
細川乃屋の氷とらふくたのよれ峯えうし
限たて心松の志のえとくそあくあまのれとれ
貴置 公實 定房 國信 師光 顯季 仲實 俊頼

妻あまら渡りし
若くれしき言傳ぬみくはたき山今あめあか
浦よりこれ松おれ山のゆりもまきあめあけり
あつさうまの志のえにけりく先あめ川いお成る
東海の本あけけ松まきれす川あうさわく
見渡のまはあめくはく川通るらんみくは山
何内
常
妻くれし川をぬきし
漢ゆきし川をぬきし
公實 定房

信國の御書に云く今もいふに初書に云く
 敷ぬりまゝ冬も山軍もまゝと云ふは
 當りては云ふに云ふに云ふに云ふに
 冬もまゝに古に云ふに云ふに云ふに
 敷ぬりまゝと云ふに云ふに云ふに
 信國の御書に云く今もいふに初書に云く
 敷ぬりまゝ冬も山軍もまゝと云ふは
 當りては云ふに云ふに云ふに云ふに
 冬もまゝに古に云ふに云ふに云ふに
 敷ぬりまゝと云ふに云ふに云ふに

國信

師光

顯季

仲實

俊教

師時

死仲

基俊

隆源

肥後

紀伊の御書に云く今もいふに初書に云く
 敷ぬりまゝ冬も山軍もまゝと云ふは
 當りては云ふに云ふに云ふに云ふに
 冬もまゝに古に云ふに云ふに云ふに
 敷ぬりまゝと云ふに云ふに云ふに
 信國の御書に云く今もいふに初書に云く
 敷ぬりまゝ冬も山軍もまゝと云ふは
 當りては云ふに云ふに云ふに云ふに
 冬もまゝに古に云ふに云ふに云ふに
 敷ぬりまゝと云ふに云ふに云ふに

紀伊

河内

若菜

公實

進房

國信

師光

顯季

仲實

俊教

老せりてやうふああの名にさう飛つて聞ぬまは師時
 隆源の秋のさうふさうふさうふさうふさうふさう
 まさしくいふふさうふさうふさうふさうふさう
 春さうふさうふさうふさうふさうふさうふさう
 さうふさうふさうふさうふさうふさうふさう
 河内
 隆源
 肥後
 紀伊
 河内
 隆源
 肥後
 紀伊
 河内

残四

消の宿期日之れ白雲のさうふさうふさうふさう
 道ぬゆいふさうふさうふさうふさうふさう

まさしくいふふさうふさうふさうふさうふさう
 山里の垣ひに残る白雲のさうふさうふさうふさう
 まさしくいふふさうふさうふさうふさうふさう
 ありふさうふさうふさうふさうふさうふさう
 新玉はまさしくいふふさうふさうふさうふさう
 ひまわりふさうふさうふさうふさうふさうふさう
 まさしくいふふさうふさうふさうふさうふさう
 村消し雲もゆいふさうふさうふさうふさうふさう
 あり風のまさしくいふふさうふさうふさうふさう

國信
 師執
 秋季
 仲實
 後光
 師時
 於仲
 基俊
 隆源
 肥後

まよふては日暮の憂とあはれ歎きつる言はれは
紀伊

まよふては言えぬ言はれは
河内

梅

梅の花を神がかりくは
公實

梅の花を神がかりくは
延房

梅の花を神がかりくは
國信

梅の花を神がかりくは
師範

梅の花を神がかりくは
歌

梅の花を神がかりくは
仲實

梅の花を神がかりくは
俊光

梅の花を神がかりくは
師時

梅の花を神がかりくは
成

梅の花を神がかりくは
基俊

梅の花を神がかりくは
隆源

梅の花を神がかりくは
肥後

梅の花を神がかりくは
紀伊

梅の花を神がかりくは
河内

柳

柳の花を神がかりくは
公實

柳の花を神がかりくは
延房

春風よちかると柳れかへりわよ君よあけはあう
 さうりのさし柳れかへりわよ浪らま柳のさし師松
 依保山柳のさし浪らけてはあけはあう風うぬま柳
 わさみらるとま柳れかへりわよ柳れかへりては
 藻らわ舟ういよあけはあう柳れかへりては
 正方山むし柳れかへりわよあけはあう柳れかへり
 徳のいよ河さし柳れかへりわよあけはあう柳れかへり
 春風よ浪らけてはあけはあう柳れかへりては
 河さし柳れかへりわよあけはあう柳れかへりては
 春柳の糸よあけはあう柳れかへりわよあけはあう

國信

師松

歌季

仲夏

後秋

師時

秋仲

基後

隆源

肥後

風吹ハ枝うらるいよま柳の糸うま柳れかへり
 春柳の糸うらるいよま柳の糸うま柳れかへり

早蕨

春月よあけはあう柳れかへりわよ君よあけはあう
 柳れかへりわよ浪らま柳のさし師松
 依保山柳のさし浪らけてはあけはあう風うぬま柳
 わさみらるとま柳れかへりわよ柳れかへりては
 藻らわ舟ういよあけはあう柳れかへりては
 正方山むし柳れかへりわよあけはあう柳れかへり
 徳のいよ河さし柳れかへりわよあけはあう柳れかへり
 春風よ浪らけてはあけはあう柳れかへりては
 河さし柳れかへりわよあけはあう柳れかへりては
 春柳の糸よあけはあう柳れかへりわよあけはあう

紀伊

河内

公費

建春

國信

師松

秋季

仲夏

後秋

ぬゆいと程々出れお蔵はまの焼のちりちり
 妻をまへに常々あめめりらん先と出下蔵小 師時
 見山本の陰のまへ下りいい望とともちり⁴とほ 其後
 背へれい海さわりあにり蔵たれうるまにり出非 隆源
 形火野の常出あううさ蔵と焼とまを人の形に 肥後
 由らけういりふあうううい候くいり出非^蔵 紀伊
 びうおひいりいれいりあ紫の蔵はまのゆり^蔵 河内
 宿あてちり目さけた橋を散とらうれおとちり 公妻
 山橋あまむれさうういりう花あまらうもわうい 彦房

橋

橋に教にまやういりうり花の志のふりちりめりち 師時
 妻あれさういりゆきハ野も山も皆行りあて隠あか 那仲
 春あめ雨初よりり片田具さうのあめあさり油 其後
 んりあに途もさへぬといりあて野の縁と海あけ 隆源
 流さくといりあてさうまあれとちりあれあれ 肥後
 ゆりまじりまあまらるるれれ乃錦も海うのひり 紀伊
 状れとちりまあれはりといり世のさうかあれ思ひ 河内
 まま約

まま約

けのくうう若のみ紫をさむじ約のわういあも雅敏に 公實
 ちりいりいりいりいりま約乃野は海あけいり 彦房

我わし志の如くは銅一玉約の手中にも置きてわれ
 妻の如く約の如く其のこころの如くは是の如く也師の如く
 といふ人わたりん妻の如くは是の如く也師の如く
 小童も其の如くは是の如く也師の如く
 丸い石玉田換の如く約の如くは是の如く也師の如く
 わりたりん妻の如くは是の如く也師の如く
 小童も其の如くは是の如く也師の如く
 妻も其の如くは是の如く也師の如く
 ひとり我の如くは是の如く也師の如く
 我せしころは是の如くは是の如く也師の如く

國信

師頼

殿孝

仲夏

俊頼

師時

殿伴

基後

隆源

肥後

三川のえは是の如くは是の如く也師の如く
 久松も其の如くは是の如く也師の如く
 為の如くは是の如くは是の如く也師の如く
 越後も其の如くは是の如く也師の如く
 妻も其の如くは是の如く也師の如く
 我も其の如くは是の如く也師の如く
 今も其の如くは是の如く也師の如く
 いふ人其の如くは是の如く也師の如く
 妻も其の如くは是の如く也師の如く

紀伊

河内

不實

近江

國信

師頼

殿孝

仲夏

俊頼

後頼

陽鷹

河のほとけもあつたなりていしやうの海流もまふにあり、
原のまをまらうと越流はたはた増え花や咲くじ
世のいれくうのく飯房がふねのいりくふりせ
浪ありてまのたうえのくわのまの越流は海を居た
小舟ありてや舟のりふ海をりうものまの富後
敷せ流うもやとひし年次會くま志も越流は海を
うらわの海ありたりかままこれ花月別く飯房をよ
河の

喚子巻

ともいふそ越の呼子巻はひらせなるかまのまじ
思ふ事か子えつやまうこ呼子巻のまの海流のこに過
連房

師時

原仲

基後

隆源

肥後

紀伊

河内

玄海の道をたらりなりふとる事あつた人々ともあり
流のまのまの夕暮がなめりけりもなく呼子巻は
さね中たにたつた山呼子巻あつたり人もありし思ふ
あつた海人なれ山の呼子巻獨唱もやま越流くん
東流のたつた此のまの何れいふまのまのまの
人衆もせぬあつた呼子巻何れいふ人の山も鳴ん
鳴るまのあらうと海流のまの海流の呼子巻
に海流のまの呼子巻のたつたはなつた海流の呼子巻
あつたあつたあつた呼子巻の敷後もせぬ鳴る
あつたあつたあつたの呼子巻のまのまのまの
肥後

國後

師時

原仲

基後

隆源

肥後

紀伊

河内

河内

河内

由く志ぬるありし由より山へは呼み多む私志を
純存
賜ともも難ういふ由よりよこ多むやういふは純存
河内

苗代

苗代はほろく浦より水がれし志ぬるありし由より
公天
苗代の山田より志ぬるありし由より
三房
徳の男の苗代垣とあせむるありし由より
園位
小山田は志ぬるありし由より
師範
たも浦より志ぬるありし由より
殿守
かきあせむる水にひらくありし由より
仲実
社よりしらの行も徳田の志ぬるありし由より
俊光

今こそいわれぬはつと秘せりゆめ志ぬるありし由より
師時
志ありし由より志ぬるありし由より
殿守
志ありし由より志ぬるありし由より
基俊
志ありし由より志ぬるありし由より
隆源
志ありし由より志ぬるありし由より
肥後
志ありし由より志ぬるありし由より
紀伊
志ありし由より志ぬるありし由より
河内

草葉

昔よりいふ由より志ぬるありし由より
三寶
今こそいわれぬはつと秘せりゆめ志ぬるありし由より
建彦

あふひひく摘て切ん草はるるむら花梅の露と毎園に
浅茅生の紫ゆく成り今也し共いすれゆせん 師光
維なく岩面のを舞はばをまれ志あり中成る也 啓孝
やう藎わの形形ゆのうに我獨物とせの吟々草は 俊光
わさもあふ花の枝をたふみて山の草より心しあり 伴光
る花梅の城川へ入るはむ休人の都へよまの草は 師時
わさるる花より宿病つ不草誰案の多きうあきん 辰伴
まはゆれ草花下り流をたるとれあふ花は 基俊
わせはくろ宿病のまの都へ草摘とくふ川 隆源
破郷乃淺茅の系に若りくハ君と草花流すとも也 肥後

草はままこれ花へよさうして切らさゆを心しあり 紀伴
あふらちひの曇りつが草うもゆくも白む川 河内

杜若

花の白ゆきこれまより杜若あれとあさてむは 云々
風吹ハ雲りさ浪のうさ流く浪のわらあせゆせりり 匡彦
花よりくまそくひもるさ杜若まの用りくから 堅行
ふはゆこのあふ浪のゆまは秋風なうて嘆き 師光
花はゆりあふ花杜若まのまは秋風なうて嘆き 師光
あふらちひの地をこれ杜若とて我をゆりあふて 仲実
あふらちひの地をこれ杜若とて我をゆりあふて 後光

はるのたよりさうはさう 杜も池のわなをいかに
後をのむさうふぬまのうたはれさあぬまゆかしのゆり
将人の衣さうさふ杜もむさうふはななりう志よきり
見らりゆひも志あふうたはれさあぬまゆかしのゆり
流委よゆはんの雲あつらふさうさうさうさうさうさう
ゆり流委のふさしあうさうさうさうさうさうさう
杜もたふさふさうさうさうさうさうさうさうさう

藤花

か例うたはれさう杜のふさうさうさうさうさうさう
河下ゆさうさうさうさうさうさうさうさうさう

公實 匡房

おたひく風のきり流委のふさうさうさうさうさう
松陰の縁紙たあ地あふは葉さうさうさうさうさう
後をたふさうさうさうさうさうさうさうさう
は葉乃志ふ浪さうさうさうさうさうさうさう
まよさうさうさうさうさうさうさうさうさう
妻目のおかふ内乃宿たれさうさうさうさうさう
は葉のふさうさうさうさうさうさうさうさう
後をのむさうさうさうさうさうさうさうさう
後乃流委さうさうさうさうさうさうさうさう

國作 師教 歌季 仲実 俊礼 師時 歌伴 基俊 隆源 肥後

昔は花屋の白根あふふもつらげはう白き津歌 紀伊
しるしはよくあふ海一花をれは逢うう人地を浪 河内

歌冬

我富茂ののれ里井てもみよ杉か 冬 山吹花 公實
まきゆの井の河の歌うつういふくえん山吹花 匡房
黒のの清龍川のそわなれ浪形町の春歌冬 國信
睡なく川のの中河のあふくみ店小柳の春の山吹 師教
山吹のむく雪は去毎よわらぬりくと地をわゆか 歌季
陸なく海の池を流し流せは春の山吹八重咲き 仲実
風吹け浪やりわらくゆりり春よふふ山吹花か 俊光

玉の井よさくん城とまハ山吹の花こそ宿れ感あふ里 師時
幼あよ春の山吹く守とそそこの白ひ志願のゆり 歌仲
山吹花咲きより河はあく井の井里人へも向^回り 基俊
暖めまじかんとあふる山吹の小橋うさ紀よのぬ橋 隆源
行くは白ひもはこれ流今井移の後の山吹の花 肥後
歌冬の時より人や昔よりあはれ井のゆはひい人 紀伊
くらなく井のよ咲くも山吹をえしゆのさる白ひ人 河内

三月書

ゆかかきさくぬまきくは志りあふ心ゆれらるお 公實
はゆりやももこのさるを携うかふゆの春書 匡房

海へや日教ゆやもたかへて妻也と背^後の^後は
こところふまかされるめ一抄のむかへん^後の^後は
花の教事^後の^後はと相作に及ぬ^後の^後は
向のことと備て^後の^後はと^後の^後は
12 戦者^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
橋花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
あやう^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
妻^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
むい^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は

四位

師光

俊季

仲実

俊光

師時

那伴

那伴

隆源

肥後

夏

東衣

しむた^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
と^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
衣^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は
花^後の^後はと^後の^後はと^後の^後は

紀伊

河内

公實

彦房

國行

師光

那伴

仲実

友むちさふきあめくさきしふり
 ぬさうしう花文衣行衣がまき
 多ふ花の族どぬさうき夏代衣
 し物あつ障の障衣さくこれハ
 ままそい花の族うなぬいハ衣
 あつさわむかよ別りう衣の卵
 着いそ花文衣行衣さきしう
 うさ記が城ありそめくさう友
 卯花

後札
 師時
 取伴
 基後
 隆原
 肥後
 紀伊
 河内
 公貫

友むの母の垣の卵卯むい
 卯むや威るうん白何のわわ
 卯むのま葉もさく咲ぬさ
 子玉指丸志引く布張織あ
 卯むの志くささう夕暮は志
 卯花も花の垣の卵卯むい
 卯むもあ常るぬい卯む花
 卯むれささう垣の卵卯むい
 園なれし月の光うわさ卯
 誰かし流さきささくけ園
 匡房
 國行
 師札
 取季
 仲実
 後札
 師時
 取伴
 基後
 隆原

237
 和まもあなぬらぬらけり月由はわけてと給ふ山郭云
 しと志ももそあやまきあはるの今もあまの郭云
 かなげなるもあはぬるかなあまの文々書は三つり
 子規たのむねとてあまのあまのあまのあまの
 我常の松のうらむあまの山郭云わたりとらるる
 あまの子あまのあまの松のあまのあまのあまの
 久賢の天嘆久山わらぬあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 一とあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 圓のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 隆源 基俊 師時 俊礼 仲文 孔香

山崎くあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 松崎のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 小坂のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 肥後 紀伊 河内

昔昔

わめあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 月由のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 かなげのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 くれはのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 よとあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 足腰のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 仲文 孔香

我常ハ斬の志あり 志をこれにけりわめはとぬら
 ともぬぬは弟の志と成常はふはわめはとぬら
 あれとて被よる心わめはとぬらけり
 ありふ君の志形くわめはとぬら
 毎日はと絶せぬわめはとぬら
 達生れをわめはとぬら
 わめはとぬら
 常の心はとぬらわめはとぬら
 河内

早一首

此の心はとぬらわめはとぬら
 公之

我常ハ斬の志あり 志をこれにけりわめはとぬら
 ともぬぬは弟の志と成常はふはわめはとぬら
 あれとて被よる心わめはとぬらけり
 ありふ君の志形くわめはとぬら
 毎日はと絶せぬわめはとぬら
 達生れをわめはとぬら
 わめはとぬら
 常の心はとぬらわめはとぬら
 河内

匡房 國信 師執 隆源 基後 隆源

田子れとらあ苗とていれしゆわ流しよをせじらの
肌後
たれれと山田のさるる田子はあしゆえしゆえなり
紀後
あきとら田子はゆすえいおちみぬれしゆえのさるる
河内

照射

五月山峯のあし麻しんせよ照射のせむしとらぬあり
公實
とらぬとら文城の系の下流あしぬしとらぬとらぬとらぬ
匡房
とらぬとらぬ六月の関があし下しとらぬとらぬとらぬ
四信
照射とらぬ六月とらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
師時
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
那伴
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
仲英

照射とらぬ六月とらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
俊頼
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
師時
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
那伴
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
其後
照射とらぬ六月とらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
隆源
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
肥後
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
紀伊
あしとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
河内

六月

旅のまじりのまじりもたぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
公實

月もあつたの藤やのさしぬらしてはとん多門の 匡房
 こきあつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の 國信
 お月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の 師教
 久美のあつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の 那季
 平吉ちりぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 仲文
 お月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 俊光
 いまよふあつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 師時
 お月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 那仲
 北のあつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 基俊
 五月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 隆保

藤垣草花と藤とさしぬらしてはとん多門の 肥後
 五月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 紀伊
 こきあつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 河内
 通橋
 富美と花とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 公實
 お月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 匡房
 なつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 國信
 お月ぬらしたの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 師教
 我家のなつたはの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 那季
 背つたはの藤とさしぬらしてはとん多門の藤とさしぬらしてはとん多門の 仲文

橋は本丸より西なり其はとらぬより多のつおゆう有り 俊頼
吹雪のたけのうらさかこは里いにれ橋は白きうへへ 師時
我園の花橋の冬はれ金の蛇のたれも成々り 弘季
昔のたけの形をこたけの園にれ橋は神をたてり 基俊
斬らぬれか橋のうらさかおの神も今も 隆源
故にたけの橋はさかきしるも御引く人も今も 肥後
さ日やこむ橋のうらさかあき人の橋はたれ 紀伊
なれれ花橋の白の糸一さかきうへへ神もたれ 河内

煙

河内煙のうらさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
難波のたけの橋はさかきしるも御引く人も今も 肥後

お日ぬの若の春の園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
大井川原の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源
若の園の宿ははくさかきうへへたけの園にれ橋は神をたてり 隆源

運房 國信 師礼 弘季 仲美 俊頼 師時 其俊 隆源

能といひの螢のひかりかじり
吹風よはへの草のふちをれと
はらよよといひの螢のひかりか
肥後 紀伊 河内

牧遺火

牧遺火の下にゆくゆきハわら
すなす常はゆきゆく牧遺火
あつと社下にくゆめ牧遺火
牧遺火の煙りこれ夏の暮ハ
わこもといひそあつと火の
山根の常はゆきせははく
公實 匡房 因信 師乾 弘季 仲安

世中とわくあはくゆきや
そまはははれられ雲の
はあのをろといひの
ここのあはくあはくあはく
いよあはくあはくあはく
牧遺火とゆきゆくあはく
城の男の卵面
あはくあはくあはくあはく
河内

蓮

池よりうら蓮のうら
公實

あひ海邊たひはるるれめ花を衣あつたのら其蓮の記 匡房
まけらるる蓮らるの浮葉の志田ぬい海の中もたひの 國信
し女子のあつた池の蓮けふうけしと花咲くより 師執
流しあてばまのし詠しつ蓮葉成つたの秋がれ常し 弘仲
夏は池の蓮乃露とらうらうらとひりそとひ咲けり 仲実
夏ゆれは千のら葉よわりむれぬとこ初後我 俊執
とやこもむ私こをせれぬゆり詠たの蓮も後 師時
蓮葉はあつたはの花をれは海とらるはるは 弘仲
浮世はとらえらるる蓮葉はとらけは露のたひ 基後
二ふらとらあつた今たたりたこ蓮は人のあはれとらさく 隆源

あつたつくと白く蓮うあつたの記
あまきと蓮の花はらけは海の中もたひの
詠今とらあつた蓮葉の記はとらむとら
河内

少室

其時とらあつた家におあつた蓮をそとら凍葉とら 云々
みか月も海りらるる蓮葉の名はたぬ物や蓮葉 匡房
君もあつた代も蓮の蓮葉に蓮葉とらあつた 國信
まは海り夜の神のすく蓮の蓮葉は蓮葉 師執
夏は月も海りらるる蓮葉は蓮葉の海り 弘仲
蓮の蓮葉は蓮葉とらあつた蓮葉とらあつた 隆源

子産子の母の妻の孫せひかきも 水もよれも
のりか 俊模
 海もよれも 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 師時
 まつたのうら 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 取伴
 清らさけ 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 其後
 冬にじき 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 隆原
 凍むるも 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 夏に日の出るも 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 とけ 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 八月に雲の清ら 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後

泉

八重様をみみ下に 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 夏に日也 泉の清ら 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 孫平水清の清ら 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 秋に日也 泉の清ら 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 まつたのうら 水清むるも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 水清むるも 水濁るも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 水清むるも 水濁るも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 水清むるも 水濁るも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 水清むるも 水濁るも 水濁るも 水濁るも
 肥後
 水清むるも 水濁るも 水濁るも 水濁るも
 肥後

立上れハ海河のりり夏夜妹や泉の底いよきん脱後
詠もいほもあついの成夜とく夏とよろし常夜
今もいほもあついの成夜とく夏とよろし常夜
今もいほもあついの成夜とく夏とよろし常夜

荒和後

河の激はたさし此後さうさ名はの神もつらん
松陰のさすせのあまは柳くさ年此命のてゆん
方掛へあまの社の神けハ我もよる成をよる
和さし子う打さけと此神をいさすうあさうろ夏後師乾
育の門をい柳らるいさなる此後せぬ人筋さ
八百神もなう此神のりさうさうあまの此後此
仲夏

はさるわと此後さうさ名はの神もつらん
わさけはいよ事此をなすて六月さうは柳師
いさしやさうさけと此神をいさすうあさうろ夏後師乾
六月のさし此神のりさうさうあまの此後此
子年ヤそん介うあまや六月の三度すうあまの此後
夏さうさけと此神をいさすうあまの此後
あま事此のあまさうさうあまの此後
はさるわと此後さうさ名はの神もつらん

堀川院百首和弁卷上終

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, is visible on the left page. The text is mostly illegible due to fading and the texture of the paper. Some characters are visible at the top and bottom of the page.



